

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770102465		
法人名	株式会社コスモメディカルサポート		
事業所名	グループホーム愛の里 1F		
所在地	福島市大森字街道下52番地		
自己評価作成日	平成25年11月18日	評価結果市町村受理日	平成26年4月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成26年1月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念にもあるように地域との関わりを多く持ち、地域で安心した生活が送れる様に交流を図っている。そしてケアの面では個別性を大切に1:1で関わる時間を多く持ち個別リハビリや、コミュニケーションを図る手段としてくもん学習療法を取り入れている。くもんは1人30分程度「読み書き」「計算」を行い認知機能や前頭野野機能の維持、向上を図り認知症の進行 防止に努めている。また地域との関わり点では、近隣への買い物、外食、ドライブ等地域との関わりをの継続、そして1年に1度観光バスで家族様も同行しての日帰り旅行等家族様との関係も継続できるように支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 法人は県内に多くの介護関連事業所を展開しており、法人から事業運営及び介護サービス等に対してあらゆる情報の提供やバックアップがあり、質の高いケアの実践に努めている。また、同一敷地内の介護事業所と合同で消防署立会いの総合避難訓練を実施しており、災害時の連携体制も確立されている。
2. 法人では職員の階層及び経験別等による研修体制が確立されており、職員の資質向上に努めている。有資格者には報奨制度もあり、全職員が更なるレベルアップを目指して自己研鑽に努めている。
3. 事業所は家庭的な雰囲気の中で利用者が穏やかに過ごせるよう、職員間で連携を図りながら支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 みの 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 みの 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は職員全員で作り上げその主旨に添って職員会議等で話し合いを持ちながら、個人を尊重し個々に添ったサービスの提供を職員一丸となって行っている。また地域との交流も大切に、イベント等の参加や、訪問等も積極的に行っている。	「理念」には地域住民との交流のもと、利用者個々を尊重しその人らしいゆとりある生活の支援をうたっており、全職員が統一認識をもって利用者本位のケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(清掃、運動会、地域包括主催の研修)等に参加したり、事業所の行事にも近隣の方々に参加を頂き、地域との交流連携を図っている。	地域の行事に利用者は職員とともに参加し、日常的に近隣住民と触れ合う機会を多く実践している。保育園児との交流(遊戯、歌等の披露、運動会への招待等)は恒例となっており、利用者の楽しみとなっている。また、研修生やボランティアも多く受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時に避難訓練を行い、委員の方々には入居者様の現状を理解して頂いたり、地域の方々には行事等の参加時に協力や、支援を頂いている。他に近隣への外出の機会も設け、交流も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	定期的な運営推進会議には積極的に参加を頂き、事業所の利用状況や活動状況を報告し、助言や意見を頂き検討し、サービスの向上に繋げている。(エスケープ時の対応、避難訓練等の対応等)	運営推進会議は定期的に行っている。毎回会議開催時には事業所独自の避難訓練を実施し、委員から感想や意見をもらっている。会議は事業所の現況報告や行事報告等を行い意見・要望を得ながら効果的な会議を行っており、今後、会議次第様式を検討することとしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故報告時には市を訪問し利用者様の現状を報告したり、地域包括支援センター職員とは運営推進会議等を利用し状況を報告したり、電話等で相談 助言を頂いたり、協力関係を築いている。	市の担当課には事故報告等の際に訪問して現状報告をしている。さらに利用者の状況報告や相談等は常に電話等で連絡し連携を密にしている。市職員とはさらに連携を密にし協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修には職員交代で参加し会議等でその報告をし、話し合いの機会を設け身体拘束と虐待防止について知識を習得している。玄関は常時日中は施錠せず、利用者様にはその都度適切な対応を検討している。(ベット上での動きを察知できるように布団に鈴を付ける)	「身体拘束のないケア」には全職員が意識を共有して日々のケアに努めている。「言葉による拘束」にも全職員が留意し対応している。日中玄関の施錠はなく、職員の見守りで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的、精神的にも虐待が行われないように日々会議で話しあったり、研修に多く参加し勉強に取り組んでいる。そして不適切なケアをしていないかを確認したり、見逃されていないか等職員同士コミュニケーションも密にとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し職員が理解を深め、必要のある利用者の家族様には情報を提供したり、担当者の訪問時にも情報提供し協力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に1度来所頂き施設内を見学して頂いたり、利用者様 家族様が不安なく入居出来るように説明し納得をいただいでから契約締結する。改定時には家族報告会での説明や、文章で周知徹底を図り理解納得を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回開催される家族報告会で意見要望等を伺ったり、随時来所時に伺い職員会議等で話し合い運営に反映させている。また玄関に意見箱を設置いつでも投函できる態勢を取っている。	家族によっては週1回以上の面会があり、他の家族も必ず月1回の面会がある。家族会は年2回開催しており、さらに行事への参加も多く、あらゆる機会を捉えて家族の意向把握をしている。家族の意見等は事業所運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月3回(ユニット毎、全体会議)の会議や、随時必要時に話し合いの場を設け、職員の意見を聞き取り改善したり、必要時には稟議書を提出し検討し対応している。(避難通路の確保、機械浴の検討等)	管理者を中心に職員間のコミュニケーションが円滑に図られており、職員は常に管理者に何でも話せる体制となっている。また、毎月書の全体会議等でも職員の提言等を聞いており、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給は毎年実施、賞与も2回支給され資格所得者には報奨制度があったり、人事評価なども利用し、個々に向上心をもって働けるよう体制作りを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修の機会は設け、資格所得希望者には便宜を図ったり、個々にあった実力を把握し法人内の職員移動を行い、技術向上に繋がる環境作りをしている。他に2ヶ月に1回内部勉強会も実施したり、法人全体の勉強会も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修等には積極的に参加し、他同業者との意見交換をしたりと交流を図っている。また研修の中で他のグループホームの見学の機会を設け、業務の改善に取り組んだりサービスの質の向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式を利用し本人の生活面、心身の状況、焦点情報等を把握し、本人の要望等を聞きながら安心が確保出来るように会話の機会を多く持っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とのコミュニケーションの機会を多く持ち、家族の気持ちに寄り添いながら、いつでも気軽に相談出来る様な環境作りと、担当者を決めいつでも相談等が出来るように、職員との関係作りにも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族との話し合いの場を設け意向を確認し、情報を提供しながら必要な支援を見極め、他のサービス利用等にも繋げるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ること(残存機能を活用)は一緒にいき、介護することばかりではなく一緒に生活することを前提に関係作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	変化する体調や要望等は随時家族様に報告来所を促したり、支援の方法を検討したりと本人と家族の絆を大切にしながら対応している。また行事等にも参加を頂き、利用者様と一緒に時間を共有していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美美容所に出かけたり、訪問して頂いたり馴染みの関係の継続を図ったり、近隣への買い物や、お墓参りにも同行場所との関係作りも行っている。	なじみの理美容院の利用には家族の協力を得て支援している。事業所近隣の理美容院の利用は職員が対応している。利用者の友人の訪問もありなじみの関係が継続するよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の個々の性格、状況、関係を把握し状況に合わせ席替えを行ったり、レクリエーション時には孤立せず利用者同士が関わり合い楽しい時間が過ごせるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されても行事等の案内を出し参加を促したり、本人、家族様へ情報の提供や相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別ケアの時間を利用したり、日々の会話の中から本人の意向や希望を確認する。困難時は表情や動作から思いを察知しそれを職員間で共有し、本人本位のケアにて努めている。情報収集の一環としてセンター方式を活用し日々情報収集に努めている。	事業所ではセンター方式の一部を活用して思いや意向の把握をしている。現在介護度が上がり思いや意向を表せない利用者が多くなってきているが、全職員が日々のふれあいの中で利用者一人ひとりに真摯に向き合い、意向把握に努め、利用者本位のケアとなるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を使い家族様や本人から聞き取りを行い、心身の情報や暮らしの情報を把握している。また家族様の来所時には何度となく伺い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の心身の状態を察知し(言動やいつもと違う)ながら、一人ひとりの一日の過ごし方を検討し対応している。その中でも活気のある日々が送れる様に、残存機能を活用し生活意欲向上につながるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な会議の中で評価をし、家族様へ説明し了解を頂きながら介護計画を作成している。必要時は他職種とも連携を図り、意見を聞きながら現状に即した計画が出来るよう努めている。(看護師、ケアマネ、整体師等)	利用者の現状把握を十分に行い、利用者、家族の意向を踏まえて利用者の状態に即した介護計画を作成している。日々のケース記録をもとに本人の状況把握に努め、定期的に介護計画の見直しをしている。利用者の状態に変更があった場合にはその都度全員で検討し介護計画の変更をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々に介護記録簿を作り随時記録をし、申し送り簿にも記載し必要時には会議等で計画書の見直しを行っている。また新しい気づきや情報があればセンター方式の中に記載し情報の収集にも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族様の希望により歯科医師による定期的な口腔ケアや、必要時には往診、訪問リハビリ、訪問理美容等地域資源を活用し、柔軟なサービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出の機会を活用し、近くの店に買い物に行き支援を受けたり、公園や近隣の食堂に出かけたり地域の方々との交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関は状況に応じて家族様と相談し、不安なく安心して受診が出来るように受診時には情報提供し、可能であれば受診同行を依頼している。家族様の意向により協力病院の往診も受け入れている。	かかりつけ医の利用を支援しており、受診には家族対応を基本としているが状況によっては職員の対応もある。協力医療機関からは往診があり、利用後協力医療機関に変更した利用者もいる。受診結果は家族と情報の共有をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職だけで判断せず看護婦と連携を図り、支持を仰ぎながら利用者様が適切な受診、介護、ケアが受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院に対し確実な情報を提供し、確実な治療が受けられる様にして支援している。そして入院中は病院を訪問したり随時電話にて状況を伺い、早期に退院が出来るようにアプローチしている。主治医とも連絡を密にとり今後の対応策等も検討している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合や終末期のあり方についてグループホーム内で出来る事を説明し、看取り介護に関する指針により利用者様家族様の同意を得ている。状況の変化により随時意向を再確認し、病院の受け入れの了解も得ている。日々研修を受けたり、関係機関とも情報を共有し、チームで支援に取り組んでいる。	「重度化・看取りに関する指針」を作成しており、利用時に家族に説明し文書にて同意を得ている。重度化した場合には家族の意思を再確認し、医師、関係者、職員等で十分話し合い家族の意向に沿って柔軟に対応している。終末期のケアにあたっては研修会を通して全職員が方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が普通救命講習会を受講したり、急変時や事故発生等のマニュアルを作成し、グループ内で研修をし周知徹底を図っている。また随時状況の変化時は職員で勉強会も行い、愛の里全体の研修も行っている。(看護師により救命救急、AEDの使い方等)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の愛の里全体の消防署立ち合いの訓練や、年6回の独自の避難訓練には地域の方々にも参加して頂き、(運営推進会議時)地域との協力体制を築いている。同時にアドバイス等を頂きながら避難方法等も検討し、実践力も身に付けている。(火災時、水害時等)	消防署立ち合いの総合防災訓練は隣接する事業所と合同で実施しており、事業所独自の避難訓練は年間6回実施している。通報訓練、伝達訓練等も実施している。災害時の食料品や衛生品等は備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊重を重視し、日々の声掛けや、対応について会議時に話し合ったり、その都度気付いたときは職員同士注意し合ったりしている。入室時は必ずノックをし声掛けにて了解を得て入室している。特に個々に合った言葉がけに注意して行っている。	利用者の介護計画書や各種記録等の取り扱いには十分注意して管理している。職員は利用者への言葉かけなどもプライバシーを損ねないよう配慮し、利用者を尊重した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々にコミュニケーションを密にとり、本人の思いや希望を聞いたり察知したり、可能な限り希望に添えるように努めている。介護の中では利用者様が自己決定し、日々生活出来るような環境作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるがその人のペースを大事にし本人の意向を聞きながら、食事時間、入浴時間、レクリエーションの参加等、強制することなく生活を送っていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に洗濯をした清潔なものを準備し、本人に好きな洋服を選んでもらったりしている。髪はスタッフが結ってあげたり、訪問理美容利用時には利用者様の好きなスタイルにしてもらえる様に助言している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食事メニューは利用者様と考えたり、調理の下ごしらえを手伝って頂いている。食事前には口腔体操を行い、誤嚥がなく美味しく食べることが出来るように支援している。また食材の買い置きはなくその都度新鮮な食材を購入し1か月に1度は栄養士による点検を受けている。	利用者と相談しながら献立を作成しており、毎日食材の買出しをしている。利用者は食事の準備や後片付け等できることを職員と共に行っており、職員も一緒に食卓を囲んでいる。行事食も数多く企画し実践している。また、季節の外出行事の際は毎回外食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月1回栄養バランスガイドのチェック状況等を栄養士に見てもらいアドバイスや指導を受けている。また摂取量や水分量も毎日チェック個々に対し、体重の増加も考慮しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後うがいや入れ歯の清掃を行い、夕食後は舌苔ブラシを使用し、口腔ケアを行っている。月1回希望者は歯科医の口腔ケアを受け、個々にアドバイスを受けながら、本人に応じたケアを行っている。個々により必要時には歯科受診、治療も促し実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の個々の排泄パターンをチェック把握し、時間でトイレ誘導を行ったり声掛けをしてトイレでの排泄を支援している。極力自立出来るように着衣等も考慮して対応している。	「ケース記録」で利用者一人ひとりの排泄管理をし、水分摂取量、パターン等を把握しており、適切な誘導により失禁が改善された利用者もいる。トイレ誘導は身体機能に応じた支援を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便パターンを把握し食べ物、飲み物等や内服薬で調整を図っている。同時に腸の動きが良くなるように運動(体を動かす)を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を楽しむことができるように入浴剤を入れたり、季節のもの(ゆず等)を入れ季節感を味わって頂いたり、曜日や時間帯は決めず、個々の希望やタイミングを図って入浴を行っている。同時にコミュニケーションを図りながら安心して安楽に入浴が出来るように支援している。	いつでも入浴できる体制になっているが、利用者の希望やタイミングに合わせて柔軟に対応している。また、利用者の羞恥心・恐怖心に配慮した入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は午睡をしその日の体調を見ながら随時休息を促している。夜は個々にあった就寝時間を尊重し、フロアでテレビを見たり一緒に話をしたり、お茶を飲んだりしながら今までの習慣を維持しながら安心して安眠できるように支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個々のファイルに保管し、いつでも内容確認できるようにしている。同時に服薬管理や、服薬介助も担当を決め確実にしている。薬の変更時等は申し送り簿に記載しスタッフ全員に周知徹底を図り、異常時は直ぐ報告が出来る体制を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の残存機能を勘案し、居室の掃除、洗濯干し、たたみ、下膳、後片づけ等分担しながら行っている。またレクリエーションも日々によって皆さんに楽しんで参加してもい意欲向上に繋げるように内容を考慮している。気分転換のため外出の機会も設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に1度は利用者様に希望を取り外出しに出かけている。また季節感を味わってもらうために外出の機会も設けている。1年に1度は観光バスで利用者様、家族様、スタッフ全員で日帰り旅行に出かけている。希望する利用者様とは家族様の了解の下スタッフ同行にてお墓参りにもいっている。	事業所では毎月外出行事(お花見、夏祭り、紅葉狩り等)を計画し実践している。年に一度は家族と一緒に日帰りバス旅行を実施している。買い物、散歩等も利用者の希望により支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を家族様より預かり事業所が管理し、外出時や買い物時には好きなものを買ひ、支払等は能力に合った支援をしている。また自力管理を希望する利用者様には家族様了解うえ少額のみ持参して頂き、買い物時は見守りを受けながら支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には職員の支援の下家族様へ電話をしたり、1年に2回(暑中見舞い、年賀状)は可能な方には自筆でハガキを書いてもらい家族様へ郵送している。家族様からの電話はいつでも引き継ぎ利用して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が感じられるように毎月壁画を作成しフロアーに飾ったり、外出時の写真を飾ったり、環境作りをしている。また玄関には季節の花を植え季節を感じてもらったり楽しんでいただいている。室温等は床暖や空調を利用し、温度の調整や換気を十分に行い、快適な環境作りも行っている。	共用空間は各居室が見渡せるようなレイアウトになっており、照明の明るさを変えたりして快適な環境となっている。季節感のある飾りつけ、家具等の配置により、居心地良く過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな場所で過ごせるように数か所に椅子やソファを置き、畳のスペースも確保 好きな所で気の合う利用者様と時間を送れる様に工夫している。また猫も飼っていて好きな利用者様はかわいがったり、戻らないと心配したりと猫と一緒に共同生活をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切に本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	各居室は個々に家族と相談しながら、馴染みの物、大切にしている物等を持ってきてもらい、配置等を勘案しながら、障害物がなく安心して過ごせる環境作りを行っている。また常時見守りが必要になってきたら利用者様、家族様の了解を頂き、居室移動を行っている。居室の掃除(整理、整頓)等はできるだけ利用者様と一緒に話をしながら行っている。	居室にはベット、整理タンス等が設置され、利用者はそれぞれ自宅で使い慣れたものを持ち込み、安心して過ごせるよう配慮されている。居室は洋室使用となっているが、畳を敷いて和室風になっている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	不安や混乱が生じないように居室の入り口に花を飾ったり、椅子の上の座布団で自分の居場所が確認できるように自立した生活が送れる様に工夫している。		